

魚津市中期財政計画（概要版）

【令和6年10月策定】

1 計画策定の目的

- 物価等の高騰による財政負担の増加が懸念される中、人口減少や少子高齢化により市税収入が落ち込み、社会保障関係費が増加見込
- 本庁舎をはじめとする公共施設の老朽化が進んでいることから、今後、その建替えなどに多額の費用が必要



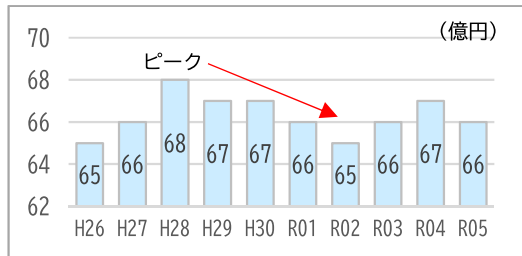
計画的な行財政運営に向けて「魚津市中期財政計画」を策定

2 基本的な考え方

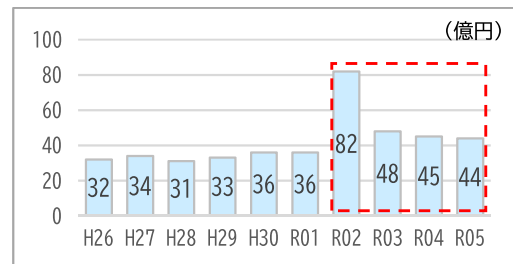
- ①計画期間
令和7年度～令和11年度（5年間）
- ②計画の見直し
今後の財政状況や新たな行政需要などを考慮し、毎年度見直し
- ③会計の単位
財政見通しの会計単位は「一般会計」

3 魚津市の財政状況

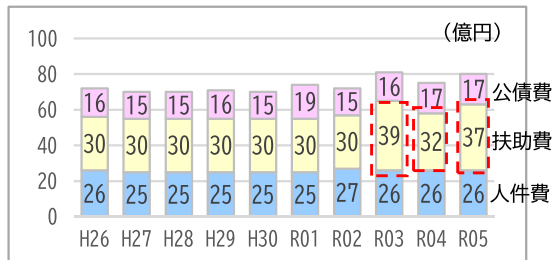
- ①市税の推移
H28をピークに減少後、R3から回復



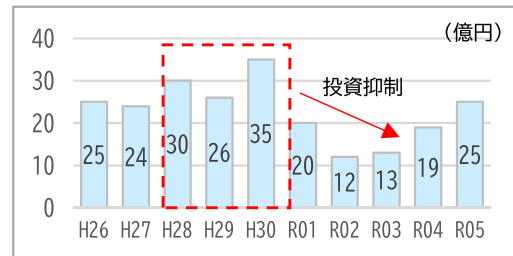
- ②国・県支出金の推移
コロナ・物価高騰対策のためR2～増加



- ③義務的経費の推移
コロナ・物価高騰対策のため扶助費増加

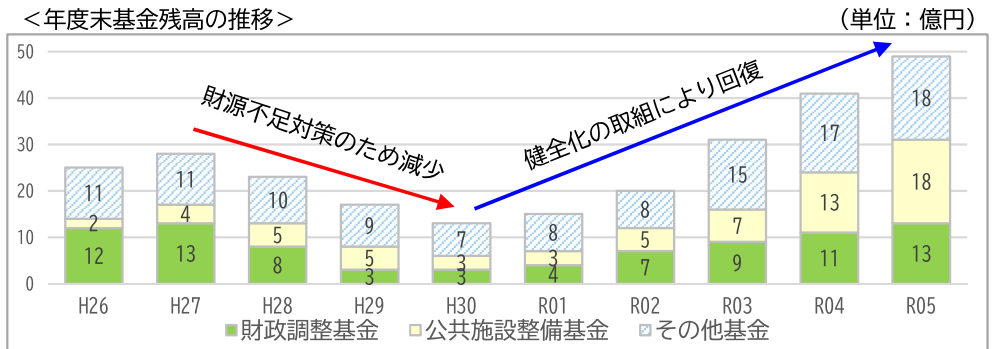


- ④投資的経費の推移
統合小建設のためH28～H30増加



4 基金の状況 (H26～R5)

- 平成28年度以降、財源不足を補填するため基金残高は急速に減少
- 令和2年度以降、行財政改革に取り組んだ結果、基金残高は回復



5 財政収支見通し (R7～R11)

- 義務的経費は、公債費が一時的に減少していくものの、扶助費が社会保障関係費の伸びにより増加傾向であるため、全体的に高い水準で推移
- コミュニティセンターや新庁舎の整備などにより、中期的に投資的経費とその財源である市債等（その他収入）が増加見込

<一般会計 歳入・歳出の財政見通し> (単位：百万円)

| 歳入 | R6当初 | R7見込 | R8見込 | R9見込 | R10見込 | R11見込 |
|----------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 市税 | 6,195 | 6,350 | 6,368 | 6,218 | 6,235 | 6,252 |
| 地方交付税 | 3,500 | 3,690 | 3,680 | 3,778 | 3,768 | 3,758 |
| その他 | 9,518 | 10,492 | 9,733 | 11,124 | 10,463 | 10,001 |
| 歳入合計① | 19,213 | 20,532 | 19,781 | 21,120 | 20,466 | 20,011 |
| 歳出 | R6当初 | R7見込 | R8見込 | R9見込 | R10見込 | R11見込 |
| 義務的経費 | 7,908 | 8,027 | 7,955 | 7,956 | 8,085 | 8,109 |
| 投資的経費 | 1,975 | 3,158 | 2,413 | 4,356 | 3,613 | 3,078 |
| その他経費 | 9,330 | 9,689 | 9,767 | 9,182 | 9,123 | 9,257 |
| 歳出合計② | 19,213 | 20,874 | 20,135 | 21,444 | 20,821 | 20,444 |
| 差額 (①-②) | 0 | △ 342 | △ 354 | △ 324 | △ 355 | △ 433 |

6 計画的な行財政運営に向けて（今後の取組）

- 毎年の財源不足は、事務事業の見直しなど継続的な行財政改革の取組や国・県の補助金、企業版ふるさと納税などの財源確保により解消
- 財政調整基金は、安定的な行財政運営に向けて適正な残高を確保
- 公共施設整備基金は、令和6年度以降、毎年3億円以上を積み立て、新庁舎整備に備え令和8年度末までに残高20億円以上確保
- 減債基金は、令和9年度以降、剰余金を活用しながら積立